

市立病院の危機と小泉自公改革

市立病院の危機を打開する方向をさぐるために日本共産党市議団では、水戸市内で病院運営に携わる方のお話しを聞く機会を持ちました。

まず医師確保の問題ですが、全体としてみれば医師数は充足してきていると言われています。しかし、診療科目や地域によって大きく偏っているのが実態です。また、研修医制度の改変や大学病院医局と医師との関

係の変化、医療訴訟の多発など、医師をめぐる状況が大きく変わってきています。そういうなかで、多数の診療科目と救急医療に携わるところとしている病院は、どこもで医師確保に奔走しています。

いま、国は医療制度を大きく変えようとしています。患者さんの側からみれば負担増が進んでいるのが実感ですが、じつは病院経営そのものも非常にむずかしくなっています。

なにより国は、全体として病床数を減らそうとしています。医療費の削減につながるというのが名目です。そして、特定機能病院として急性期の患者を重点的にみる病院を地域ごとに配置し、あとは家庭医として、いわゆる町のお医者さんをおくという方向です。

あるいは再編・統合し、地方自治体に押しつけていく傾向が強まっています。また、東海村立病院のように民間委託という選択も現実におきています。

このように、医療分野での「小泉改革」は、人命を預かる病院経営すらも市場原理にゆだね、弱肉強食の世界に投げ出そうとしています。それによって大きく犠牲になるのが、医療の現場で働く人たちであり、そして誰よりも病院にかかろうとする患者、国民へのしわ寄せという形でかえってきています。

＊



ボランティアグループ「明友会」のみなさん。大北川「あじさいロード」の今年最後の管理作業の後、バーベキューで懇親。(10月23日)

こうした政策のもとで、病院の形態によって医師の定員や診療報酬が異なり、中間的な病院は続けていくことがたいへん苦しくなってきました。もっと大きくなることを選択するか、療養型にするかの選択を迫られる事態となっているのです。

不採算部分を抱えざるをえない公立病院にとっては、事態はもっと深刻です。国みずからが国立病院を廃止、あるいは再編・統合し、地方自治体に押しつけていく傾向が強まっています。また、東海村立病院のように民間委託という選択も現実におきています。

亀谷地湿原の維持再生を

勉強会とボランティア募集

勉強会 11月13日(日曜)
9:30~11:40 市役所4階

第1回 維持再生事業 12月4日(日曜)
木道の撤去、灌木伐採、草払い

いずれか1日だけの参加でもOKです。
申し込みは、市役所商工観光課まで。



再整備が待たれる亀谷地湿原(10月28日)

介護保険

負担軽減を 県に要望

10月27日、日本共産党は、介護保険の利用者負担軽減について県への申し入れをおこないました。



鈴木やす子市議も参加(県庁)

この10月からの制度改変で、利用者はもとより、施設側も収入減など大きな影響を受けています。施設は、ひとまず内部努力で対処しようとしています。県行政は十分な認識をもっていないことも浮き彫りになりました。

利用者との「契約」という言葉で、サービス低下につながりかねない状況が放置されていることに、利用者の負担軽減措置とあわせ、施設側のサービスの実態や働いている人たちの労働実態を調査することも要望しました。